



先生の手伝いや当番活動をするのを、とても楽しみにしている子ども達。年中になり当番の日には、給食時に使った雑巾を職員室まで届ける仕事を喜んでしている。

A男は活発で、面白い言動で学級を賑やかさせている。時々、ふざけ過ぎてしまい、注意を受けることもあるが全く気にしない。そんなA男が当番になった。食後、廊下で騒いでいるA男に、他の当番の友達が「職員室に持って行くよ」と何回も声をかけたが気づかない。担任もA男に声をかけるが気づかないので、当番の子ども達に先に行くように伝えると、雑巾を入れたバケツを持って、職員室に行き、嬉しそうに帰ってきた。A男は、戻ってきた当番の友達を見て、ようやく気づき「ボクも行きたかったあー！」と大泣き。「いっぱい呼んだけど、来なかったから行っちゃったんだよ」「みんなで呼んだよ」など、口々に言う当番の子ども達。「行きたかったあ！」「職員室、行きたかったあ！」と、激しく泣き続けるA男。そこで、担任はA男に別の用事を頼むことにした。しかし、今度はなかなか動き出さず「一人じゃ行けない。誰かと一緒に行く」と言う。「誰と？」「・・・B君」。B男は、おとなしくて、ちょっとひかえめ。自分の思ったことを思った通りに話し、活発に行動するA男とは正反対のタイプ。しかし、A男は、B男が人の話をしっかり聞き、物事にまじめに取り組む子だということを見抜いていて頼りにしたのだ。指名されたB男は、ちょっと戸惑った表情を見せたが、自分より体の大きいA男の手を引き、悠々とリードして職員室へと向かっていった。そして、つないだ手を大きく振って、「ただいま」と2人でニコニコと戻ってきた。

幼児にとって、先生の手伝いをするのはとても嬉しく誇らしいことであり、そのような経験を重ねていくことで自分の存在が肯定されるものなのであろう。また、子どもは子どもなりの見方、とらえ方をしている、自分とは違う相手の存在、その子の持つよさや価値をしっかりと認識しているのだということを痛感した。これまで、おとなしい子には積極性を、積極的過ぎる子には落ち着きを求めてしまっていたが、子どもは、一人一人の持つよさやその子なりの味をきちんと認め合っている。

子どもの力を信じて見守っていきたいと感じた一日だった。

(幼稚園 4歳児担任)

*第10回 幼児教育教職員 自作保育教材展の開催を予定しています。



展示期間：平成30年2月14日(水)～2月27日(火)

9:00～17:00

※日曜日は除く。27日は正午まで。

※日程等は、変更になる場合もあります。

展示場所：前橋市総合教育プラザ 3階 教育資料展示室